

町長の
まち・ひと・しごと
魅力発信

～ 事業所訪問 vol.2 ～

「秩父エレクトロン(株)」

町内には、優れた技術を持った会社が多く存在します。事業所の持つ技術や魅力を町長自ら訪問して、目で見て、お話を伺い、住民に情報発信する「事業所訪問」を連載します。



強谷社長から製品の説明を受ける森町長

町長の見て・聞いて・話して

事業所訪問の第2回は、2月22日に下小鹿野の秩父エレクトロン(株)を訪問し、強谷隆彦社長、坂本榮治朗常務にお話を伺いました。

秩父エレクトロン(株)は、小鹿野工場の他にみどりが丘工業団地に工場を持ち、全従業員は81人の企業です。

小鹿野工場は、フォトマスク基板製造とエピタキシャルウエハの製造を行っています。

フォトマスクは、携帯、家電などの集積回路作成におけるフィルムのネガの役割をします。製造には1万分の1ミリのゴミも許さない清浄度と仕上げ技術が必要で、同社は、研磨・洗浄を超高精度に仕上げる世界有数の会社です。一般の人が見ると、出荷前と後では何ら変わらないと思われませんが、極めて平らで、人の目に見えないところで付加価値をつけています。

また、工場を囲むように、純水製造装置や薬品、廃液を処理する建物が数棟ありました。一般の工場は建屋があって、電気があり、機械があれば操業できますが、こうしたバックヤードがなければ、始めることのできない特殊な仕事であり、ゼロから始めるとなると初期投資やノウハウが

必要なため、簡単に海外では出来ないといえます。

お話の中で、同社で扱う基板研磨の約9割はリサイクル品で、バーজন材は約1割だということに驚きました。世界中から集めてきたリサイクルの半導体のパターンを薬品で落とし、磨き直して、新品のように仕上げる技術は国内でトップクラスとのことです。半導体素材研磨加工の匠集団として常に世界最高を追い求め続ける企業であると感じました。

わが社の主力製品

半導体フォトマスク基板用ガラス、エピタキシャル成長、SiC(シリコンカーバイド)、サファイア、GaN(窒化ガリウム)、GaP・GaAs等の化合物半導体、MEMS、Siウエハ研磨加工、金属膜蒸着半導体材料の加工などを幅広く行っています。

ここに自信あり

みどりが丘工場では、SiC(炭化ケイ素)ウエハの研磨の技術開発に力を入れています。SiCウエハは、熱伝導率が高く、素子としての電力の損失が少なくなるという特性を生かし、省エネルギー化が期待できる次世代のパワー半導体といわれています。試算によれば、シリコンから次世代のパワー半導体に代わることで、原子力発電所7基がいらなくなるといわれています。ところが、SiCは硬く、シリコンなどに比べて、削りづらく、洗浄も難しい素材です。同社では、その技術開発に全力を挙げています。

前列左から森町長、強谷社長、坂本常務、長谷川副町長、後列左から峰岸課長、峰岸(QC) ▶



▲社員旅行の一場面

▼クリーン度クラス1の
クリーンルームも所有



会社概要

代表者 代表取締役 強谷隆彦
従業員数 81人
創業 1985年
所在地 小鹿野町下小鹿野1111番地
電話 0494-75-3333



◀工場の周りには、超純水設備や廃液を処理する大きな建屋が並んでいる。